

# 「地域まるごとケア」を広め、 定着させてきた三方よし研究会

**小串輝男**

「医療法人社団小串医院理事長・NPO法人三方よし研究会会長」

**花戸貴司**

「東近江市永源寺診療所所長・NPO法人三方よし研究会実行委員長」

## 楽しいメールングリスト

参加しているメールングリスト（ML）のなかで、いちばん楽しく読ませてもらっているのが「三方よし研究会」のものだ。管理者の医師、花戸貴司さんが、小学校での絵本の読み聞かせや、健診時の子どもたちの様子を交えながら、病院から家に戻ったり、お看取りの時期を迎えたりする本人と家族の葛藤や喜びを、いきいきと伝えてくれていて。それに共感したり、ツツコミを入れたり、自分の体験を書き込んでくる人たちのコメントを読むのも、また、楽しい。

その花戸さんが、滋賀県東近江市永源寺地域にある診療所敷地の一角に、2年前フィットネスクラブをオープンした。それに加えて、今年はレストランもオープンする予定だとMLで知り、コロナが一段落したら訪ねたいと思っていた。フィットネスやレストランを、医師がなぜつくるのか、その真意も聞きたかったからだ。

## フィットネス&レストラン

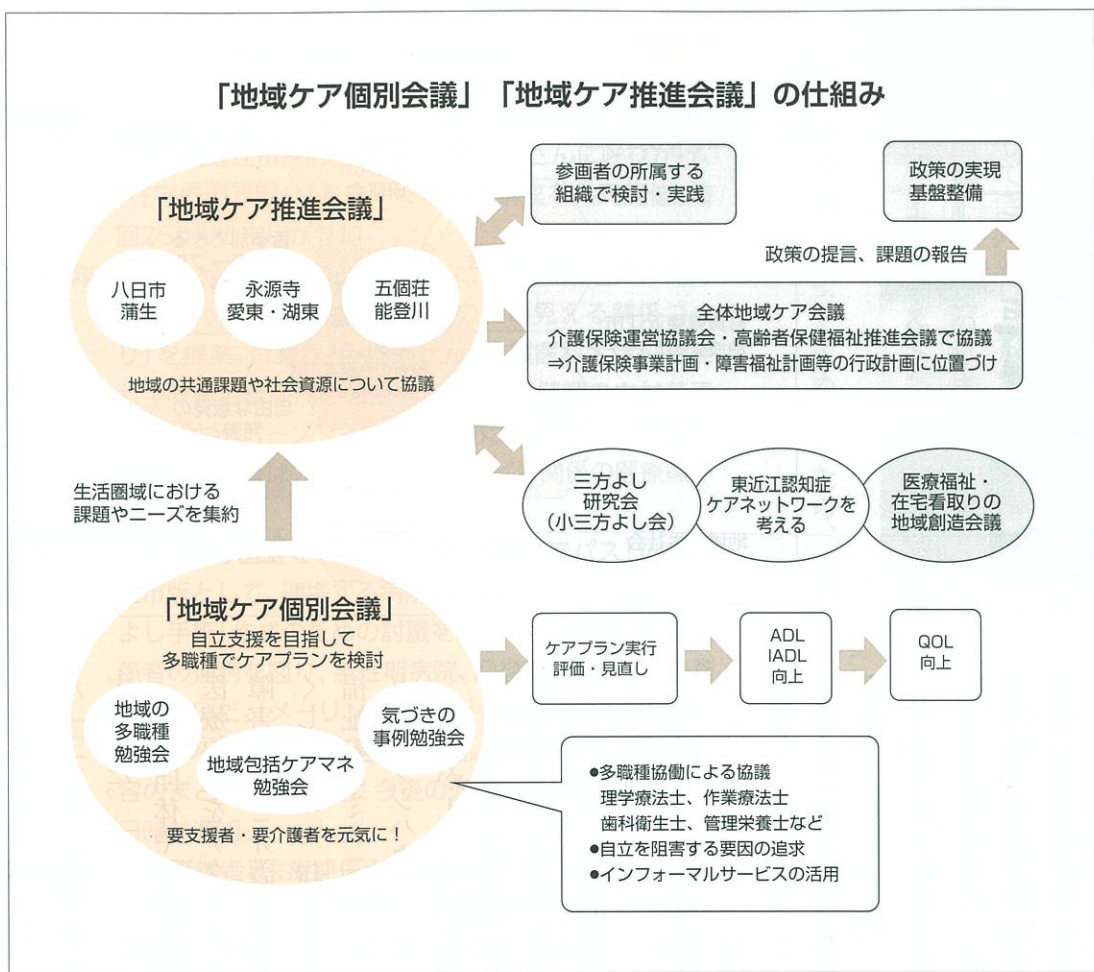
花戸さんが「社長」を務めるフィットネスの利用料は驚くほど安い。入会金なし、入館料1回330円。有酸素バイク、トレニングマシンとパワープレート、教室の利用に加え、パーソナルトレーニングや集団運動指導も行っている。

きっかけとなったのは、コロナ感染の拡大だった。地域の「集いの場」がごとごとく中止され、住民が顔を合わせる機会も少なくなつたため、花戸さんは「何かしないと」と考えた。「もともとは診療所の新築だけの計画だったんです。でも、地域のことを考えると、病院にこない人にも健康になつてもらいたいし、いろんな人とつながってもらいたい。そこでまずはフィットネス、あとはご飯を食べるところをつくつたら人が集まるかなと考えました」

花戸さんが、この診療所に赴任したのは24年前。当時6500人だった地域の人口は

オープン前とあって、レストランで食事はできなかったが、広い窓から緑の田園風景が見える心地いい木造りの店内は、「三方よし研究会」つながりの「あいとうふくしモール」のレストランや「中野ヴィレッジハウス」につ

ながる雰囲気だ。しかし、フィットネスとレストランの資金はすべて花戸さん個人の持ち出し。「クリニックを1つ開業できるほどの借金をした」と笑う。「僕が小児科医だからかもしれないが、どんな状態、どんな年齢の人も含めて、まるごと関わっていききたいというのが根本にあるんです」



「患者よし・（医療・介護）機関連関よし・地域よし」

花戸さんが先輩医師の小串輝男さんとの二人三脚で、東近江市で続けている月1回の研究会（東近江地

域医療連携ネットワーク「三方よし研究会」は、この7月で187回を迎える。

2007年に「医療と介護の関係者で、顔の見える関係づくりをしよう」と、近江商人の家訓とされた「買い手よし・売り手よし・世間よし」を「患者よし・（医療・介護）機関連関よし・地域よし」と言い換え、代表を務める小串さんを中心に20人程度でスタートした会は、いまや会員700人以上。医療と介護の専門職に行政職員、オンラインを始めてからは患者、介護家族、メディア関係者なども含めた100人近くが毎月参加し、勉強会を開いている。

テーマはこの数か月でも「ポリファーマシー」「災害時の要介護者避難支援」「若年者の退院支援」「パーキンソン病」など多彩で、30分の発表後、グループワークでテーマへの理解を深める。私も数回参加したことがあるが、参加者の熱量に驚かされた。「住み慣れた地域で最期まで暮らせる社会」を目指して、多職種が勉強会を17年間、毎月続けている地域は全国でも類を見ない。コロナでしばらくオンラインに移行し、全国から参加者が集まったが、地域の病院がもたまりで会場を提供してきタリアルルの会も、7月からまた再開する。



三方よし研究会会長・小串輝男さん(左)と実行委員長の花戸貴司さん

5000人を切った。高齢化率は39%。高齢化のピークはすでに超え、高齢者が減少するというフェイズに入っている。そうした地域では「働く場所を創出する」といった経済的な面が重視されることが多いが、花戸さんはこう考えた。「それよりも住んでいて楽しいとか、なにかやりたくなつてくるとか、そういうアプローチのほうが大切なかなあ」と。

花戸さんにとっては、フィットネスはそんな地域づくりへのアプローチのひとつだ。実際、90歳を超えた近所の人たちが、有酸素マシーンを楽しそうに使い、午前中、グループで行う体操やボール投げ、筋トレに参加する地域の高齢者も少なくないという。

## 多彩な活動

脳卒中の後遺症のある患者のケアを、病院同士の連携でスムーズに行い、家に戻すため

三方よし研究会の歴史

**2006年**：NPO法人「しみんふくしの会」の当時の代表・小梶猛さんが、東近江市医師会会長・小串輝男さんに呼びかけ、「在宅での看取り」をテーマに連続講座を共同開催。毎回250人の市民が参加。

**2007年**：第5次医療法改正をきっかけに、保健所長(当時)角野文彦さんが、「医療関係者同士の顔の見える関係づくり」を提案。角野さん、小串さん、滋賀医科大学脳神経科学教室名誉教授の松田昌之さん、保健師の中村恭子さんがキーパーソンとなり、「三方よし研究会」が発足。当初の参加者は20人程度で、リハビリ関係の医療職が中心だった。

月1回の例会をスタート。「脳卒中ケアパス」の東近江市版として、連携する病院間で情報共有を行う「三方よし手帳」作成のための討議を重ね、医療機関・医療関係者の連携を図り、急性期病院、回復期病院、在宅療養をつないだ。「メーリングリスト」による意見交換開始。月1回の「三方よし通信」を配信。前回の例会の討議内容のまとめ、寄稿記事、今後の方向、次回の開催場所と日時を通知。

**2008年**：介護事業者、医療関係者、宗教家、行政、市民と一緒に地域福祉を考える「地域から医療福祉を変える東近江懇談会」スタート。ここでの「妄想」(2009年～)から、小梶さん、太田清蔵さん・川副きよ子さん・野村正次さん・楠神渉さんが中心になって、「あいとうふくしモール」構想が始まった。

**2011年**：「クリティカルパス」づくりを超え、市民を含めた「まちづくり」への発想の拡大。地域から医療福祉を考えるフォーラムで寸劇を行ったり、脳卒中後遺症患者の「風船バレー大会」もスタート。

**2013年**：「あいとうふくしモール」誕生

**2014年**：小串さん、第2回「日本医師会 赤ひげ大賞」を受賞

**2016年**：「三方よし研究会」100回を迎え、NPO法人に。人材育成のため初任者研修を開始。

**2016年**：花戸さん、兵庫県養父市主催の第3回「やぶ医者大賞」を受賞

**2017年**：コミュニティハウス「中野ヴィレッジハウス」スタート

**2021年**：花戸さん、診療所と同じ敷地内にフィットネスクラブをスタート

特定非営利活動法人三方よし研究会

〒527-0045  
滋賀県東近江市中小路町 483 番地  
連絡先: hanato@eigenji-clinic.jp (花戸)  
http://sanpo-yoshi.blogspot.com/

続けることの好循環

「顔の見える関係」「車座」「時間厳守」「走りながら考える」「会場はもしまわり」。一貫して大事にしてきたのは「形から入らないこと」だ。ここには、多職種の集まりを長続きさせながら、地域ケアを変えていくヒントが詰まっている。

「始めから100%を求めていたら、煮詰す(笑)」と、孫をめめるように小串さんが目を細める。

「研究会には、いくつかのキーワードがある。「顔の見える関係」「車座」「時間厳守」「走りながら考える」「会場はもしまわり」。一貫して大事にしてきたのは「形から入らないこと」だ。ここには、多職種の集まりを長続きさせながら、地域ケアを変えていくヒントが詰まっている。

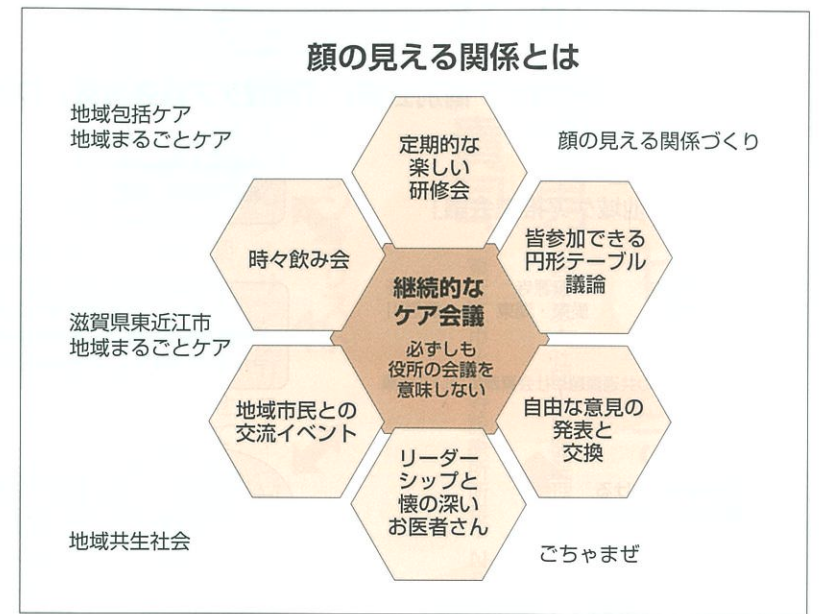
「始めから100%を求めていたら、煮詰す(笑)」と、孫をめめるように小串さんが目を細める。

「続けることの好循環」。『地域包括ケア』が「地域まるごとケア」になるのに必要なのは、このことではないのかと思った。

(2023年5月17日取材) (中澤まゆみ)



道路に面したフィットネスジムはガラス張りである



「脳卒中パス」をつくるどころから始まった「三方よし研究会」からは、新しい試みも広がった。

市民団体や子育てママなど、広範な人々が医療福祉をアクションする「東近江懇話会」、障害福祉と介護と食をつなげる「あいとうふくしモール」、伊勢詣の街道の街並みを生かし福祉のコミュニティづくりを目指した「中野ヴィレッジハウス」...

例会が100回を迎えた2016年にはNPO法人となり、介護人材の育成も開始した。それらの原動力を担ったのは、今年4月に亡くなった会の副会長で事務局の小梶猛さんだった。

「医療や行政職員だけではなく、市民活動をしてきた小梶さんが当初から参加したことで、市民と一緒に地域ケアをつくりあげていく流れができたと思います」と、小串さん、花戸さんは口をそろえる。

介護人材を地域で育成しようとNPO発足とともに開始した「初任者研修」は、研修終了生からの要望で「実務者研修」も行うようになった。両方とも講師は小串さん、花戸さんをはじめ「三方よし研究会」会員の医療福祉関係者だ。参加者は10代から50代過ぎまで毎年10人程度だが、そのほとんどが現場で働いている。

「講師は現場でバリバリやっているプロ。しかも、受講料が安い。研修会は僕らの自慢で



東近江市永源寺地区にある東近江永源寺診療所(右)と、オープン間もないDoctor's Restaurant [La MAison RUrAle] (左)